

EA939A-16 クツ底補修剤



仕様

- 内容量…50ml
- 重量…75g
- カラー…ブラック
- 補修用ポリ板・ヘラ・サンドペーパー付き
- すり減った靴底に塗るだけの補修剤です。
かかとのすり減りだけでなくはがれたときの接着剤としても使用できます。

用 途

- 各種クツ底のすり減りの肉盛り補修に。
- 新しいクツ底の裏面にぬって、すり減り防止に。
- クツ底のはがれの補修に。



接着できないもの ○ポリエチレン ○ポリプロピレン ○ナイロン
○フッ素樹脂 ○シリコーンゴムなど

※靴底の種類や形状によっては補修できないものがあります。※貴金属類や高価格品の補修には使用しないで下さい。※食物や生物を入れる容器には使用できません。※身体に直接触れる部分の補修には使用しないで下さい。※補修面積が小さい場合十分な接着力が得られません。

特長

- シンナー(有機溶剤)を含んでいません
→空気中の湿気と反応して固まるので、安心して作業ができます。
- 肉やせ(乾くと目減りしてしまう現象)がありません
→二度塗りする必要がありません。
- 固まる前はマヨネーズ状の液体です
→色々な形に対応できます。
- 靴底と同様に、ちゃんと減ります
→ケガの心配が少なくなります。
- 耐水性に優れています
→雨に強く、はがれにくくなっています。
- 硬化後は塗装ができます
→微妙な色あわせもOK!

セット内容

- サンドペーパー: 補修する部分を平らにするために使います
- 補修用ポリ板: かかとの形に添って、きれいに仕上げるために使います
- ヘラ: 塗ったクツ底補修剤を、平らにならすために使います



使用上の注意

- 火気のあるところでは使用しない。
- 使用時及び使用後しばらくは換気をよくする。
- 子供の手の届かないところに置き、いたずらをしないよう注意する。
- 用途以外に使用しない。
- 衣服につくととれないので注意する。
- 直射日光の当たらない涼しい場所に保管する。
- 中身を使い切ってから燃えないゴミとして廃棄する。

かかとがすり減った



下準備

きれいに仕上げるためには、下準備が必要です。
補修する前にきれいにすることで補修後の『耐久性』が違ってきます。

用意するもの

- 補修用ポリ板を固定するためのテープ
- 作業用手袋
- 汚れ防止のための古新聞やシート

1 使い古しの歯ブラシなどで、砂や汚れを落とします。



2 付属のサンドペーパーで、表面をきれいにならします。



3 かたく絞ったぬれ雑巾できれいに拭きます。



4 乾かします。

Point

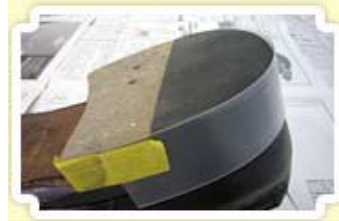
乾かす際に、ドライヤーは使用しないで下さい。大切な靴の変形の原因になります。

作業

1 付属の補修用ポリ板 を、靴底のかかとに沿って貼り付けます。

Point

- 補修用ポリ板のツヤのある面を内側になるように貼り付けて下さい。
- 補修用ポリ板を貼り付ける際は、粘着の弱いマスキングテープがお勧めです。糊残りがありません。
- 補修用ポリ板は、かかとからはみ出さないように貼り付けます。
- 補修面積が大きく、補修用ポリ板の長さが足りないときには、クラフトテープのツルツルした面を外側にして二つ折りにすると、補修用ポリ板の代用ができます。



2 キャップの先端を使用して、チューブを開封します。

3 補修する部分に、本製品をすきまが
できないようにしっかり埋めていきます。

Point

- 厚塗りすると硬化するのに時間がかかります。一度に補修する厚みは4mm程度にして下さい。固まったのを確認し、二度塗り(重ね塗り)をして下さい。



4 ヘラで余分な本製品をかき取るようにして、
平らになります。



5 一昼夜(24時間以上)放置します。

6 中までしっかり固まったのを確認して補修用ポリ板をはずします。



Point

- 補修用ポリ板を外したときに、中まで固まっていない場合や、気泡が出来てしまった場合は、クツ底補修剤を直接ヘラにつけて塗り込みます。この場合も、完全に固まったのを確認してから履いて下さい。
- はみ出した部分が気になるときには、はさみやカッターで切り取ることができます。

完成



クツ底補修剤の使用後は、チューブの先端をよく拭いてしっかりとキャップを閉めて下さい。クツ底補修剤は空気中の湿気と反応して固まる補修剤です。一度開封しますと硬化反応が始まります。開封後はなるべく早く使い切るようにして下さい。完全に固まったのを確認してから履いて下さい。